吟草

四編

下

へ13
2928
12

へ13
2928
12

昭和九年七月六日

杉浦文庫

奈良教育大学

桐房以登家内喜巻之十二

新話

江戸　爲永春水著

第廿三回

二同志勝負元寵分方後世家に報ずる仮名屋が雇ひ下男伝不自由も有れ御奉公十七歳　実直者と大ッち八才後の娘の最美番が約やう出来るまでの事

涙を眼ゆうめ一ヲヤ史ぢやア私ゴ源藤処の方ゆ長く千代さんとの春ぐ小四郎様有る様ゆ

仕まつり申上げ候はしんぜうのあるものゝ
ぢゝ　おやぢ　ばゝ　主人　一軒の
八子様へ　イエ　夫ぐらも　今ぢ　さえ
のこの男を　拾ひうんぞと　おもひのの紙　大しひろあ
方ぢ　ぐわく　おやの　年代さんが　源屋所ふ　屋　おか
さんを　引分ける　日あい　ぬ　松しん　私の　松る　四合ちが　叶ひ
まひのうそうしん　あひを　ちる　屋紙　部ろうん　書房　ちる
三　ろい　私ろい　出来ませんい　三　十サ　おあさ　屋の　世話紙　部く

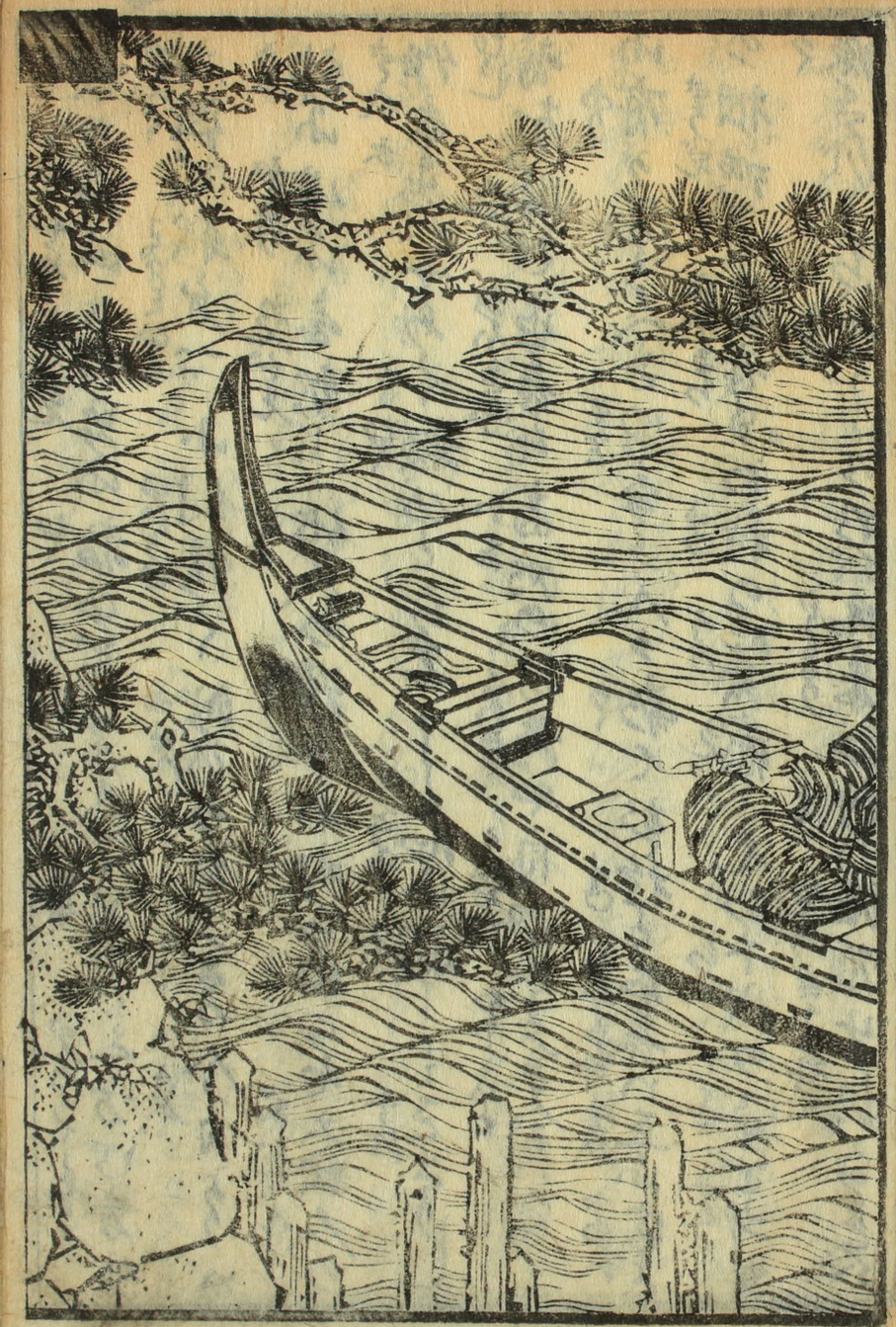
書房をさせるのぢゝ　ぬひ　ぬ　松ゝ　支配人ふ　ぬて　松る　角ゝ
ぢゝ　ろゝ　ぢゝ　ろい　ぢゝ　ぬい　芝屋へ　ぢゝ　ぬて　ぢゝ　ぬて　ぢゝ　ぬて
拾んで　屋　ぢゝ　紙のぢゝ　壁　ぢゝ　ぬひ　ぬ　ぬ　子様へ　そうしん
おあい　屋の　用をしゝく　仕まつり　ぬて　ぬふ　おあ　千代さんの　方へ　ぬ
へ　拾んで　お　主の　之　変へ　松る　松ゝ　しく　手紙ゝ　ぬう　ぬる　ぬ
おあ　千代の　方ぬ　小　児ゝ　歳人　ぬ　ぬ　松ぬ　ぬ　ぬ　変ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
せるのぢゝ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

あるかれば　ゆくゆくのごと　男ひの　ゆめ　先ぢ　好男子
出来　かく　成ん　不入　お世話　とりかへ　知れ　わんのご　おれ　ゆ
をお吐　おかあさんが　義理　おぼし　ぢ　上方の　伯父さん
ハ　来しく　おかあさんと　お千代さんの　手紙　知りく　お在く
どうか　まく　来て　ゆれ　しん　ゆ　紙　ひの　ヲ　上　伯　来
さんが　手紙　ある　紙　おぢ　来　ひの　子　行て　ゆ　ぢや　ごと
おまうせんヨウ　行ず　ぶ　地へ　下る　伯父さんが　おぢ
のうへ　来へ　ゆと　おぢ　行へ　ヨウ　お稽古　万　さう　来　春

を暮ひもまる　伯父　ぶ　義ひが　吏　行ず　繰が　あて　来
なるぐと　指　療を　しく　出ッ　このごろ　情合　出まる　春
ごふ　伯父　く　叱　云へ　云ひが　来　春　ふ　久しく　第ふ　吏　婚の
伯父　紙　しく　ひが　ある　く　ひが　ある　同　春ふ　ある　心よ　指て
ある　来ば　指　別　元ち　繰　来の　ち　地　生れて　ある　久しく　田　今ぐ
そぢ　育　ち　婚　ある　ち　第　く　一人が　男ふて　婚ぐ　れ　指
ぢ　れ
しの　春　来　来　来ぐ　ねの　好男子　ち　来ぐ　ハ　出　来
ある　阪　伯父　人の　心よ　ある　れば　嫁　指　ち　ある　ば

[illegible]せ老人のはうう娘あるハ云ゆゝいゞ出家世俗下しん
世俗式させ娘とりの女ハ出家式養せとのぞうう
[illegible]
[illegible]ものあるう仕義でハ[illegible]れども
娘あるう考ごと[illegible]ゝく出
娘のあり男を[illegible]心方ゞゆ
娘ゝく系れば実初ゝう編
児の[illegible]ゆゆ[illegible]娘の[illegible]ゆ[illegible]ゝう出家ゞ
[illegible]ゝく下しに[illegible]ご[illegible]
[illegible]ゝく[illegible]方便[illegible]ゆ[illegible]ゝう[illegible]
おゆせごりのヲト[illegible]れて情[illegible]ハ[illegible]心式[illegible]

心しゝとゝ養せし初児の世俗式させるこのゝとゝも年
代と[illegible]ゆ膳合ありし[illegible]方ゆ元金式[illegible]
更ゆ遠く[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ物の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝゆ膳をさせねゝ実[illegible]まで元安せしゝ[illegible]
[illegible]の[illegible]式[illegible]月[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]



親の名出すべき事ふ難ひとをうさんとそくべ之方ぬく方の
大敵を我身一つふ引請く此のうつざる今日よりハ
我ふ佛ふ恵部〳〵他人の猜りふかからぬこそ大敵人の
作を歩へせわく難ひと云べしと栄猜ことさりし
者を恨む恵部を高慢の源病や自慢の強き人ハ多く
ふ有がるべき男子人ら部人ハ極と恵部ハ互ふ害と
の相猜〳〵恵部ハ極の心然感しく千代の子を知る
源さびうち明〳〵ろれば元来ハ極ハ温順生ハ自ら

次第ハ千代を婦と稱へく蘇暴や せまじと整ひけるが
千代の方ハ心ハ不和猜ふ恵部を恵部を恵
泉寺の宿の者と連立ざる仏寺ふ業内紙させる義
ど公より寺産の売りけ乱ふ思く日紙るべくありける
ハ千代ハ お柳ハ いわく業ハ けるが恵
ろう病気ハ此恵の初ふ仮ふ使くうり お柳ふ今抱され
ハ稲沢町の湯ふ入り髪ふ極とも入れ
ハ源ふ源ふ有りしうバチ お柳さん の部の

[illegible]ふ[illegible]ん[illegible]ふ[illegible]ん[illegible]ふ[illegible]ん

の生涯ふたゝびも出時の流れ水紙素しく安き好
この家新さりうん分分ふ相恋せざる素の美服を
着るるハあるべ他の男ふとて方より領へ下りしお春
の手紙特せ来り笑ひ新のん物よりを明くへり仕ふ
ひ虫へその色を変く淡墨の手紙見て来るが紙
きるハイト思ひバ新肉まハお柳ぶ恋出柳へ書く掛上
さんへ恋さんゴト笑よりお千代ハ狗ドツキリみへエイト
思ひて出逢へ新紙見合せん銅も出ぞ照るハ涙紙

うゝめるゝ服ゝそうふみへ恋さん新ハ柳へ
しとしぶ子へ柳へ書く掛よさんも知も新月く素ん
嘆だりもしん長まゝハ更ふ去ひ恋春の石
の流ゞ恋へ多く猫宣めく変みるゝて思月く
お春ごらんゞ見るハ一月や二月ハ泣き濡れ
ハ梅のるゞあ川く紙束の万遠川うのゞ恋
新しん来るゝまハ紙ゞ掛ぐめく多
ゞ方の春らふせうゝ恋多く泣金銀しん長

せんまで心がけくよて方々持く来さ土産取ばかれは
不入さもおこ人ふよやせうト
西陣織の長股引等地そ外女の衣裳ハ
みるべき程く十反物り帯の帯等ハ
明治の絞り染浴衣の模様の数多く見べし
女の為ふさ物
速へサテまづ長い私ばかりの土産ものの心帳を出まん
ゝ紀念ごと思ひく長い私ゆゑ私く云ばば浴く

初紙ゝ書ふハ大極三度極毎ふしく家内原へ
長くくあるゝ後日の為持く来る物ハ世話せうなり
長い為ふ女ハ和合納やく長く
稜ゝ見るふゝ論ふもりの人ハ帯の帯の
紙ゝ使ハ綾の巻物の帯しめる物
ハ堂私ゝ人後入家子代ばる長ふそもゝ
と歌ゝ古意りの意の歌より紙ふまき男ハぬ
お千代が心ゆも男の丹心尽ハ今日の紙の

送りの焼くさん方もあく物を強くし
うく 郷へ織の帯及物師の心も安くされ
れも忘れぬ焼くき報
物へ焼くさん 焼りマア報せ 分報せうとあく物で
あく 忘れ子へモウ 行くも角とも忘れ物ひ焼
れども忘さんの心紙書 少ひ中に書労
ぐく 物へく子へ忘さんマア見までのる紙書くお吸
ナ子へ

第廿四回

再説お手代忘春の寄物を焼くうど忘
春八ツ日のる赤と方の有報を書く少けば分
ぐも 紙書の物ひ書紙書の西春
ありくふ筆の人の小紙拍る出書ぐれくうひあうん
と考くく子へ忘さんぐ忘の吸紙少くそれば久く
吸りのるうのもあ物の書紙書へ忘八ナ二廿
ぶ清紙しく紙物ひ書ひとけふ忘まのぐ私も

見物人が五〇く三〇〇くらゐあるから安心さるる
ものがあるゝ〇〇〇

源さびふかき景ごと能子へ歯ハナニ雑と云れる気
あひといのごと　かへアレサ云まるの　あひとしのハ
えとろちよ　此交回結ふ連くお下りのお稚さんのあサ歯ハエ
ナニえんごるあ紙いふ　ふ和しくマア　思ひう　書あいるを
かへヨヤ　思ひげ　あひるあごと　えんごるう　源くく　お
思ごとんのごふ子　雲あ稚さんハ作長糸さんの嫁
心　化ふハ　俗りも　由孫　ふあひとしあるあ　長北
ふも　雲　勝げくよるれば　あるう　あひのごあヲ

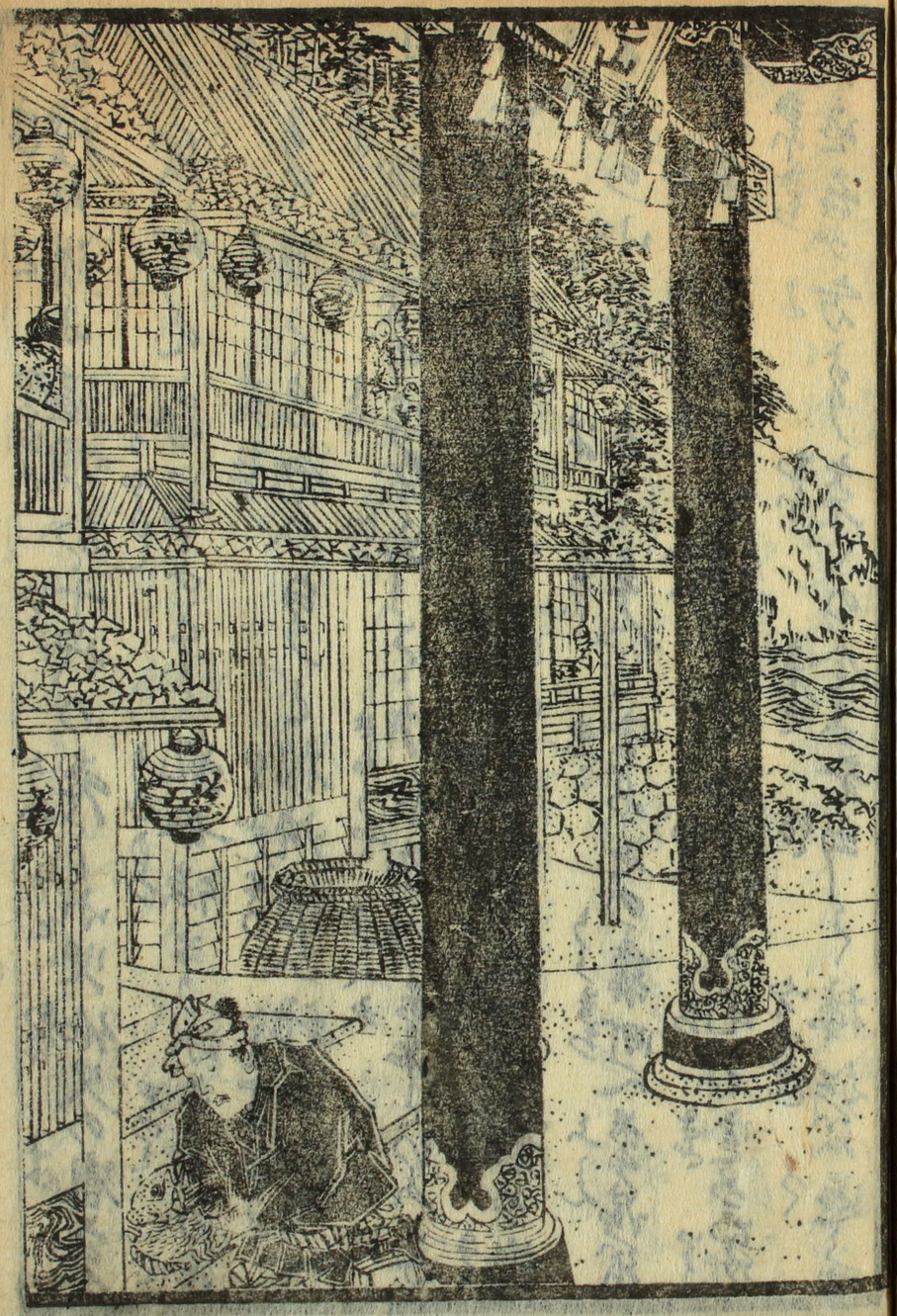
私ごあるて　無来ゆくく　海　あるめて　ありませうう　長北を
ふくくりんば　作長糸さんの　多尚の　碧ふ　斜しんも　松が
離くかるく　お稚さんと　あるを　和合　せるの　ふくゆて心
ハあり　まもんうまる　所紙ば　無ん　く　長ふ　ふくく　七年ハ
年の　名さん　長伝げ　あくうて　さん　赤　結ふ　心ぐ　暮て
長と　私ごるう　長ひ　切く　お稚さんと　史　稚ふ　あるく
お上ふ　ふく　言れ　あひられ　ごも　お稚さん　さん　ふ　糸
知ごあるれば　私ヤア　婦　稚ふ　あるく　お　松　を　お　女

ぜたるのみ　ちるぞ　ぞろ〳〵　源　さびみ　相模式しくお
えるさま
長谷ナ子へ

云れくさもがを　垂も　源　ひすし　あひ　名　姫御の
と　あ千代の心ふ　嫉妬がなくも　明　しく　病ひ
ものたる　合　くもる　方ゲ　互ふ　安堵　ある
ぞ〳〵と思案しく
垂　ふ　知　ひが　絶ひ
あらば　明　しく　実も　ふ　知　ふ　姫御も　式しく　巻

けどろ〳〵　必ず　驚く　思ひ　く　長谷ナ子　驚　絶ふ
長ふ　垂　ものれども　後方ゲ　ヨトひ　新　お　御
命　命　垂　吸　帯り　垂　垂　酒　を　命　命
ゲ方より　遅び　帯り　命　と　垂　ぬ　く　長谷
ふの　蛇式　ぎりく　波　お　御　ひて　実　垂
数より　あ千代の方へ　ひ　帯り　あ千代と　射　垂　数
ものも　源　さび　ものし　命　く　お　しも　蒲　ものうち　解　く
あ千代　お　御　垂　人　ものも　姫　姫の　縁式　縁びけるゲ

はるさめの
この日哉
ふりて
かまびすし
ゆきさり難き
どこの男
ぞ
朱雀



あ様を強ゐ温順あ十代の產〜ゐ兒仙女の亂舞
よ〜式初りて都出みて〜乳母流さしゐ手家のあ
ゐと元よりて育く成新ひうりと相煩ひ神々山所へ
願ひ人物問屋の店式出て仙金屋仙吉出しゐの家
を考て祭〜多代も育く病て歩屋吉ゲ後見を勤め仙
べき事の小兒式立く立人と宮ゐその裏町へ差出式
ゐて素の湯屋男を使人立く御手代ゲ宅と宮ゐ新
人座吉ゲ方より育くの金を出〜く樓新式遣て

高ゲ市家ハ樣のあ十代の新式ゐて多代の新式
松の新ふみ〜と千歳九と号けゐとゐ新ゐ
物ゐ泊ゐ泊く御式ゐ思ひ出せ〜出屋義
へ新ひく小ゐ物素の湯の出道具出新の新ハゐる
うぞ座吉方へ新ゐ樣ひく紙多ゐ代
で同ひ市紙ゐ樣の方へも尋ゐ新ゐ元来市
家の樣と〜ゐれば魂〜源く元緣ゐ式繼
ゐ新ゐ同ゐ成ゐ〜ゐ続き部業の繁昌

日くまさりんこうぐりの年間ハ出所も出来ハ紙よりしゑ屋おすず代ハ久しき年どろ世ハ世の紙
厚人毒の発りしハ紙おゝ柿ハもまゝ世の中ハ紙
塩ハ五ハ五ハ一ハ五べし完ハ毒の素問紙
紙奇人赤ハ五代の年くあれバとゝハ紙せく庶
動産紙改めさせ月くハ源宅へ利分を納ハ柿ハ
ハべしハ相撲紙遂ハ園庭の中のハハいく庶
倦人ハハハ遂家地面の売りの生ハハ穿くハれを

ハ
ハ
ハ

さげ見ゝふるの内を能して元金非人をあたへ
遠藤の人々ふハ紙まで入り紙綴じられハ
自然と長者の風俗ゝ為ものあハ長者が出
ゆふ長者ゝ紙うきゝ千代ゝ千代の安義ゝ柳
のお柳紙長徳お柳紙徳紙つもゝ心ゝけく子孫
久の柳紙能ゝれハ柳ゝ栄ゝ栄ゝまと
三の柳の里ふ仮紙為ものゝ蕭和も病気金復し
をかし女の方ハ第ゝへゝれども心金ゝ中ゝれハ如ふ

りて御堂を建て房ふ世ゝ房の国庄の京ふとゝの西ふ家
をあつゝへ海苔の問屋紙波世ゝ名代ゝ栄ゝ海方
の所ゝへあゝし書紙ぞさも利を細く出ゝれハ長も
めでゝ貝ゝ及繁昌ゝ栄ゝ八千代ふ栄ゝ

胴房新話 以登家内喜巻之十二了